

水の旅 令和4年版

冬柴 純

水の子のアグアとローは、温かい海に来ました。青い大海原が広がり、陽射しは強く降り注いでいます。大きな白い鳥が海面を飛び交っています。

突然、白い鳥が海に潜り始めました。海中で小魚の群れを追いまわし、次々にくちばしで捕らえて飲み込んでいます。小魚の群れは散り散りになり、どこかへ姿を消しました。

アグアは白い鳥に近づきたずねました。

「あなたはどこから来たのですか」

「私たちはアホウドリです。少し離れた島に住んでいます。この辺りは小魚が多いので、毎朝島から飛んで来ます。昼間は海で過ごし、夕方島に戻ります」

ローが、

「島へ連れて行ってくれますか」

というと、白い鳥は、

「背中に乗ってください」

と答えました。

島には大勢の鳥が戻っていました。地面には数多くの巣があり、ひな鳥が親鳥から小魚を口で受け取って食べていました。アグアとローを連れてきた鳥も、ひな鳥に小魚を食べさせていました。

島には、鳥の他に人の姿もあり、島の頂上には白い灯台がありました。

翌日は、雷鳴がとどろき、雨が打ちつけていました。白い鳥は翼を広げてひな鳥が濡れないように守りました。

二日後の日は、よく晴れました。白い鳥は次々に飛び立っていきます。

アグアとローは、鳥の群れを人が眺めていることに気がつきました。人は三人いて話し声が聞こえます。

「朝飛び立つ鳥を見ると元気が湧いてくる」

「夕方戻る鳥を見ると気分が和らぐ」

「ひなが大きくなっている。間もなく巣立ちしそうだ」

三日後の朝、アグアとローは白い鳥の背中に乗って、海に戻りました。アグアが、

「あのひなたちは間もなく大人になるのですか」

とたずねると、白い鳥は、

「あと7日ほどすると、ひな鳥が初飛行します」

と答えました。ローが、

「その様子を見たい」

というと、白い鳥は、

「その日は鳥が一番華やかに見える日です。私たちが育てた新しい命が次々に飛び立ちます。ちょうど海の流れが鳥に向かっていて、あなたたちはその頃、島に最接近するはずですよ」

と答えました。

アグアとローは白い鳥に礼をいうと、お互いにいいました。
「7日後が楽しみね。海上からひなたちの巣立ちを眺めることとしましょう」